

【学生フォーラム】

岡崎・祭りがつなぐ人と人～それを支えるものづくり～

人間環境大学 ものづくり研究会

【要旨】

私たち人間環境大学ものづくり研究会は、岡崎でのものづくりに着目し、それを仕事としている人々を取材し、大学のあるここ『岡崎』を拠点に活動しています。今回は今年度の活動報告ならびに、「祭」と「食」を通じた人々との出会い、それを支えるものづくりや今後の活動指針について発表します。

1、はじめに

前回学生フォーラムで発表した通り、この一年は、私たちの興味・関心が高かった「祭」と「食」に注目し取材を行ないました。また、自身のホームページや岡崎商工会議所の『会報』や岡崎の情報誌『リバーシブル』の連載にも力を注ぎ、記録・発信に努めました。まずは今年度の活動を報告します。

2、活動報告

今年度の活動は以下の通りです。職人さんへの取材や祭りへの参加をさせていただきました。

(1) 食

- 2006.3 おこしもん(鈴木家)
- 2006.4 まるや八丁株式会社(八丁味噌)
- 2006.6 近江屋本舗(和菓子)
- 2006.10 丸石醸造株式会社(酒蔵)

(2) 祭

- 2006.4 松井本和蠟燭工房(和蠟燭)
- 2006.5 能見神明宮大祭(山車曳きとして参加)
- 2006.7 太田煙火製造所(花火)
- 2006.8 菅生神社祭礼(山車曳き&ねりこみ参加)
- 2006.9 岡崎天満宮大祭(取材)
- 2006.11 三浦太鼓店(和太鼓)

(3) その他

- 2006.5~9 匠庵取材(岡崎城公園)
- 2006.6月12月 キャンドルナイト参加(松井本和蠟燭店協力)
- 2006.10 大学祭 メイン企画担当 太鼓演奏&製作実演(三浦太鼓店協力) おこしもの体験など

(4) まとめ

これら「祭」と「食」の取材から広がったコミュニティーが、大学祭やその他のイベントにもつながり、改めてものけんが色々な方々に支えられているのだと思いました。特に岡崎の祭に参加したり、実際に大学祭を企画したりと、「祭」を通して地域の方々とたくさんのお逢いがありました。祭は人と人をつなげてくれます。その祭は「もの」をつくる一人一人の職人さんによって支えられています。

3、今後の課題

祭を支える「ものづくり」を、もっと知りたい、もっと深めたいとの思いから、私たちはこれから、祭を徹底的に追いかけていきます。そこで、大きく二つの視点から見ていこうと思います。

(1) 歴史的な視点

祭では、多くの方にお話を伺いましたが、よくその中で「昔はもっとこうだった」ということを教えていただきました。祭はどう移り変わって、どんな意味づけをされながら、現在に至るのでしょうか。そしてその変化は、ものづくりにどう影響したのでしょうか。また、伝統的なものづくりを追いかけてきましたが、機械化が進んだ現代のものづくりはどうなっているのでしょうか。昔からの技術は、どんなふうに使われているのか。今でも、機械より手のほうが優れているものづくりはどれくらいあるのかも、調べてみたいところです。

「伝統的なものづくり」という言葉を使ってきましたが、そもそも伝統とは何なのでしょう。長く続いてきたことを伝統というのか。昔からあるものを言うのか。それとも受け継いでいくという、人の意志なのか。職人さんたちは伝統についてどんな考えを持っているのでしょうか。

(2) ものづくりからひろがるつながりの視点。

ものをつくるには素材や材料、道具が必要です。では、その素材や材料を選んだ理由は何なのか。どうしたら最も活かすことができるのか。また、その素材や材料の取れる自然環境にも興味が湧きます。道具づくりの職人さんにも、話を聞いてみたいと思います。同じものづくりでも、地域・地方によって違いが出てくるものがあります。岡崎と他の地域を比較し、違う理由も調べてみたいと思います。

4、おわりに

これらの視点から研究したことをより明確に記録するため、成果物を作ります。案としては、まだ構想段階ですが、祭と地域の人々、そして職人さんのつながりがわかる「祭マップ」です。

また祭マップだけでは伝えきれないことを1冊の本にまとめようと考えています。最後になりましたが、取材をさせていただいた皆様、ものけんを支えてくださる皆様、本当にありがとうございます。